



全大教

全国大学高専教職員組合 発行所
Faculty and Staff Union of Japanese Universities
毎月1回10日発行（1部30円）組合員の購読料は組合費に含まれています

第267号 2011年9月10日

全大教のホームページ <http://www.zendaikyo.or.jp>
◆全大教の紹介
◆大学・高等教育に関する情報など
◇情報の提供やお問い合わせは全大教情報宣伝部まで
Eメール <josen@zendaikyo.or.jp>
〒110-0015 東京都台東区東上野六丁目1番7号 MSKビル7階
TEL 03(3844)1671/FAX 03(3844)1672

組合員みなで力を出し合い 仲間を増やそう



全大教は、7月の定期大会で、各単組がそれぞれ組合員純増を果たすことを2011年度の組織拡大目標として決めました。

組合員増で運動に弾みを

2010年度（2010年8月から2011年7月）の1年間で

は、全大教加盟の約3割の組合（37単組）が組合員を純増または維持を達成しています。

うまくいっている組合の特徴は、組合の会議で常に加入についても話しあい、レクリエーション・団交など加入を結びつけている、大きな組合では中



組合員純増を達成した単組の表彰式

「過半数をめざす組合づくりマニュアル」を成し遂げよう

その目標を達成するべく、7月に「過半数をめざす組合づくりマニュアル」をめぐり「みんなで行く組合活動」を

「みんなで行く組合活動」をめぐり「みんなで行く組合活動」

その目標を達成するべく、7月に「過半数をめざす組合づくりマニュアル」をめぐり「みんなで行く組合活動」を

その目標を達成するべく、7月に「過半数をめざす組合づくりマニュアル」をめぐり「みんなで行く組合活動」を



2011年7月・全大教作成

この「マニュアル」は、「第1章組合活動編」と「第2章組合拡大編」で構成されています。

新書記長からのあいさつ

長山 泰秀 (ながやま やすひで)

7月の定期大会での役員選挙で新しく書記長に選出されました。組合員の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

定期大会では、提案した運動方針案を一部修正の上で認めていただきました。その決定に従って、全大教の運動を大きなものにしていくのがつとめです。

賃金、労働条件に関しては、全国の単組・組合員の団結を示し、社会に訴え、教職員の賃金の改善が図られるよう努力します。それぞれの法人での団体交渉を成功させることはもちろん、全国的な労働条件決定の枠組みについての検討に着手します。

「社会の中で生きる大学、大学を活かす社会」の実現を目指すべく、大学という場、大学教職員の働き、大学を持つ社会の豊かさへの信頼感と理解を広げていきます。高等教育政策の提言に向けた検討、大学での教育の問題に斬り込む検討を充実させます。

従来他団体との共同の関係を大切に、信頼関係の更なる深化を目指しつつ、共同の幅を拡大していきたいと考えています。

こうした仕事を成功させるためには、全大教の組織の立て直しが急務と考えています。

この間、全大教の財政面の危機を訴えてきていますが、その打開と運動の活性化のためには、組織内の信頼のネットワークの充実が重要だと考えています。全単組、全組合員の貢献が必要です。協力をお願いします。そして、全大教の運動に貢献しようという声に応えていきます。



今月の紙面

- ◆ 単組からのレポート
- ◆ 高工ネ研「専門業務別裁量労働制6月から導入」
- ◆ 弓削商船高専「若手組合員の台頭に期待する」
- ◆ わたしもひびく
- ◆ 専門研究者が語る
- ◆ 「国家公務員給与最大10%削減の問題性」
- ◆ 国立大学協会との意見交換会
- ◆ 第22回全国私大教研集会に参加
- ◆ 2面
- ◆ 3面
- ◆ 4面
- ◆ 大学人インタビュー
- ◆ 沼津工業高等専門学校 特任教授、工学博士 渡辺敦雄氏

案じています。大学・高専の執行部との関係を改善し、学内での組合の認知度をあげることで、組合の役員に就いた人の負担の軽減の工夫なども盛りこんであります。

組合の年間スケジュールの中で取り組む楽しい行事の例も多数挙げました。

第2章は、具体的に組合員加入をすすめるための方法について、手順を踏んで取り組んでいくためのポイントを示しました。

自分たちの組合の状況を把握し分析することからスタートして、みんなで行く組合員加入をわかりやすくまとめてあります。また、病院での組合員加入の取り組みについて活用して下さい。